

令和3年度北九州市小児保健研究

「新型コロナウイルス感染症流行下の
乳幼児のメンタルヘルスについて」

研究報告書

研究責任者

南里 亜由美 国立病院機構小倉医療センター 小児科医師

研究協力者

上野 雄司 国立病院機構小倉医療センター 小児科医師

安永 由紀恵 国立病院機構小倉医療センター 小児科医師

緒方 怜奈 国立病院機構小倉医療センター 小児科医長

渡辺 恭子 国立病院機構小倉医療センター 小児科部長

山下 博徳 国立病院機構小倉医療センター 院長

【背景】新型コロナウイルス感染症の流行は、多くの人々や業種に混乱とストレスを与え続けている。大人と同様に乳幼児のメンタルヘルスにも大きな影響を及ぼしていると考えられるが、その実態は不明である。保育園・幼稚園は、家庭に次ぐ子どもたちの身近な支援場所である。子どもの行動変化と安全な環境を考える際の乳幼児特有の感染対策の問題点、社会のニーズとどう向き合ったか、乳幼児のマスク着用の実態や子どもの変化について小学生以上の報告は散見されるが、乳幼児を対象とし調査、報告されたものは少ない。

【目的】新型コロナウイルス感染症に伴う乳幼児のメンタルヘルスへの影響について、北九州市内の保育園・幼稚園での実態を職員へのアンケート調査を行うことで明らかにし、問題点やその傾向を探る。

【対象と方法】北九州市内の保育園・幼稚園を対象に匿名の質問紙を郵送して、回答を依頼し、結果を集計した。

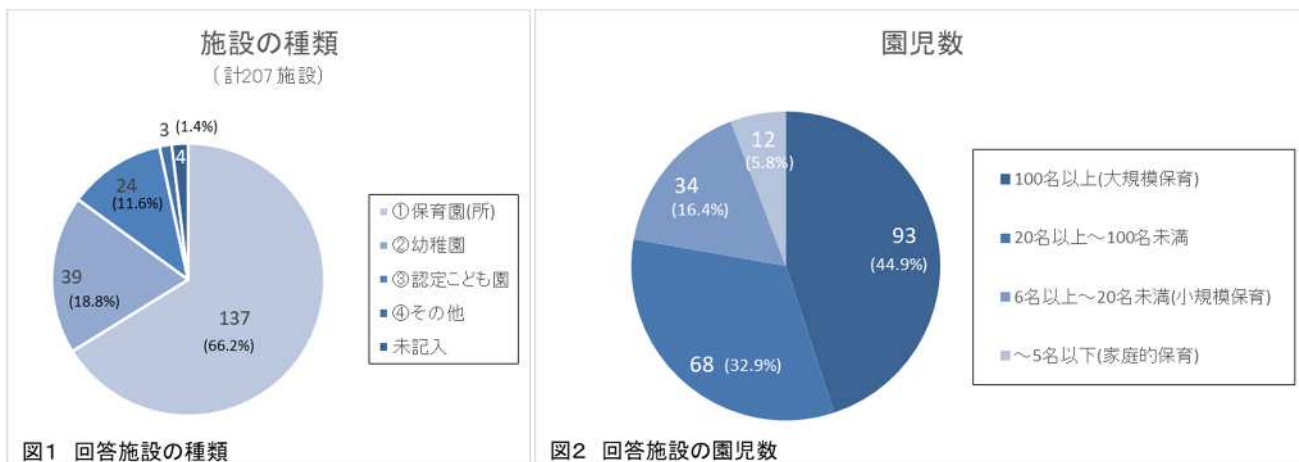
【結果】

1. 回収率と回答施設の内訳

2021年9月に北九州市内の幼稚園・保育園(所)・こども園 329 施設に質問紙を送付し、動 10 月 31 日までに 207 施設 (62.9%)から回答を得た。所在地の内訳は小倉南区 52 施設、八幡西区 46 施設、小倉北区 40 施設、門司区 23 施設、若松区 19 施設、八幡東区 15 施設、戸畑区 12 施設であった。(表 1)

	回答施設数	送付施設数	回収率(%)
①門司区	23	76	68.4
②小倉北区	40	86	53.5
③小倉南区	52	61	65.6
④若松区	19	32	71.9
⑤八幡東区	15	33	57.6
⑥八幡西区	46	24	62.5
⑦戸畑区	12	17	70.6
計	207	329	62.9

表1 回答施設と回収率



施設の種類の内訳は保育園(所) 137 施設(66.2%)、幼稚園 39 施設(18.8%)、認定こども園 24 施設(11.6%)、その他・未記入 7 施設であり、各施設の園児数は 100 名以上の大規模保育園が 93 施設(44.9%)、20 名~100 名未満が 68 施設(32.9%)、6 名以上 20 名未満の小規模保育が 34 施設(16.4%)、5 名以下の家庭的保育が 12 施設(5.8%)という内訳であった。(図 1, 2)

2. 休園や登園自粛の実際と園児数との関連

2020 年 1 月~2021 年 9 月までの休園および登園自粛要請の回数・期間を問う設問に対する回答は以下の通りであった。(図 3, 4) 休園の回数・日数は園児数が多い施設でより多かったが、登園自粛要請回数や日数では明らかな差はなかった。(図 5)

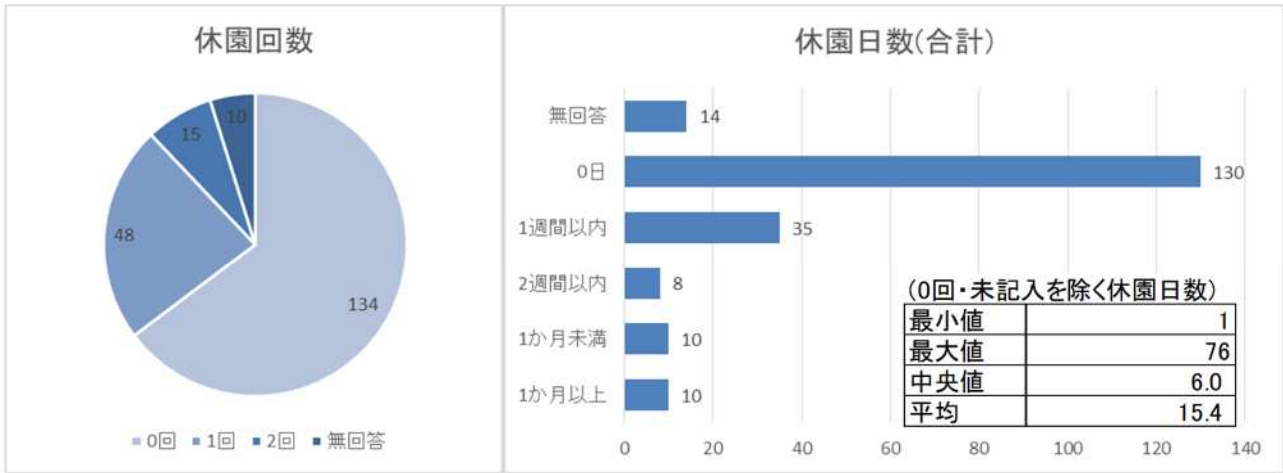


図3 休園の回数と期間

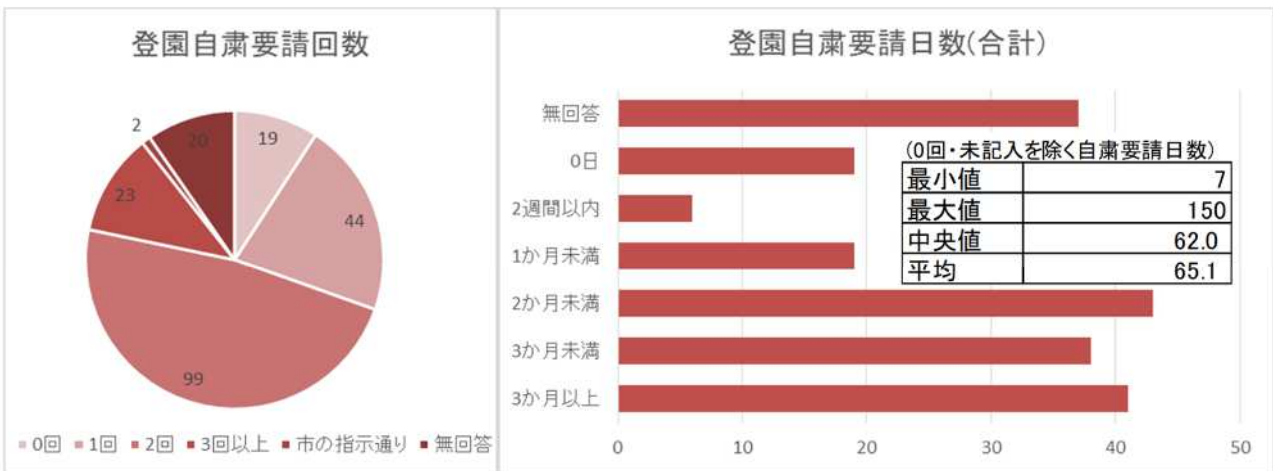


図4 登園自粛要請の回数と期間

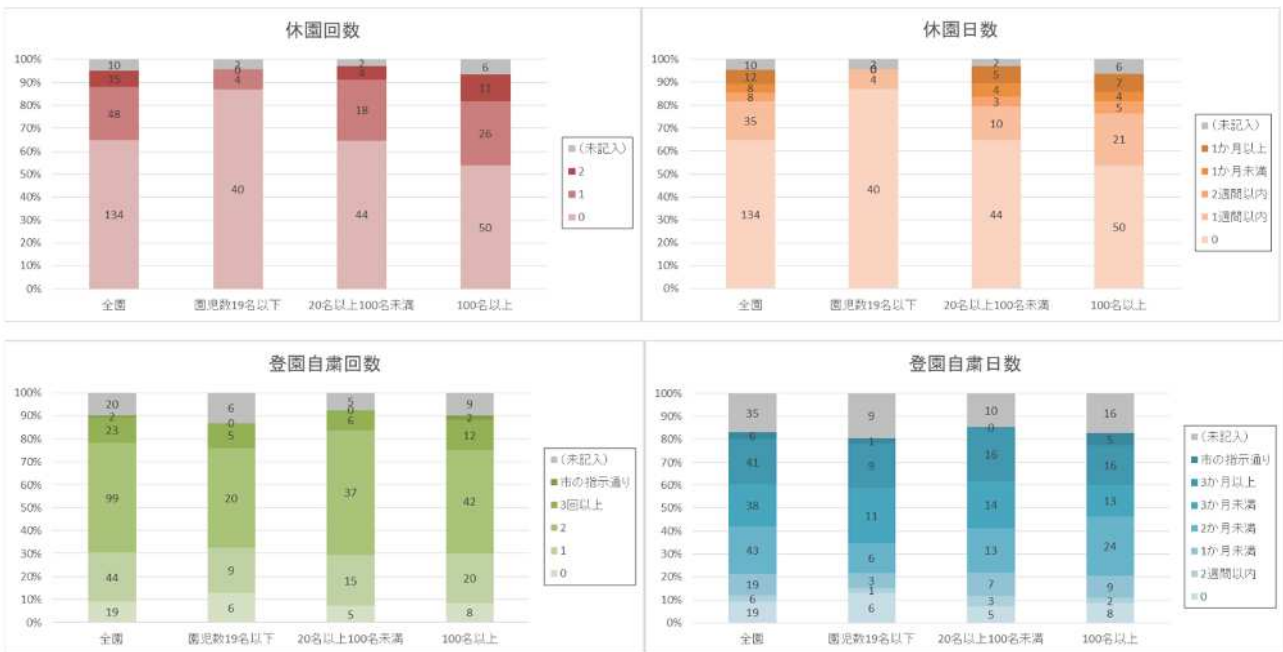


図5 園児数別 休園回数・日数／登園自粛要請回数・日数

登園自粛の実際について自由記載には「家庭局からの文書を配布した」「休園としたが、預かり保育は実施した」「職員の感染により休園した」「全園児を2グループに分けて1日おきに登園するようにした」「緊急事態宣言の度、自粛要請は自治体から出されるが実際にはほとんど登園していた」などがあった。

3. マスク着用について

コロナ禍前後の職員および園児のマスク装着状況を示す。(表2)

職員のマスク装着(複数回答)			園児のマスク装着(複数回答)		
	コロナ禍以前	コロナ禍以後		コロナ禍以前	コロナ禍以後
①すべての職員	20	205	①例外を除き概ね全園児が着用	2	39
②一部の職員	23	1	②年齢を限定して着用	13	92
③体調不良の職員	104	1	③保護者や園児が希望する場合	72	65
④着用していない	49	0	④体調不良のある園児のみ	68	26
未記入	1	0	⑤すべての年齢で着用させない	40	32
複数回答	10	0	未記入	36	8
計	207	207	計	231	262

表2 コロナ禍前後の職員および園児のマスク装着状況

コロナ禍以後、職員はすべての職員が着用すると回答した施設が大半(207施設中205施設:99.0%)であるのに対し、園児は多い順に①年齢を限定して着用(44.4%)、②保護者や園児が希望する場合(31.4%)、③例外を除き全園児が着用(18.8%)と施設ごとで対応が分かれた(複数回答)。年齢を限定して着用すると回答した施設の「マスクを着用させる年齢は？」への回答(自由記載、回答94施設)は「3歳以上」としたものが最も多く63施設(67%)であった。(図6)

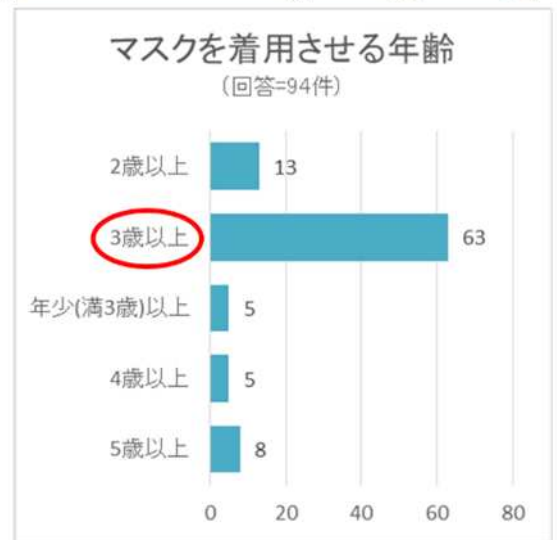


図6 マスクを着用させる年齢

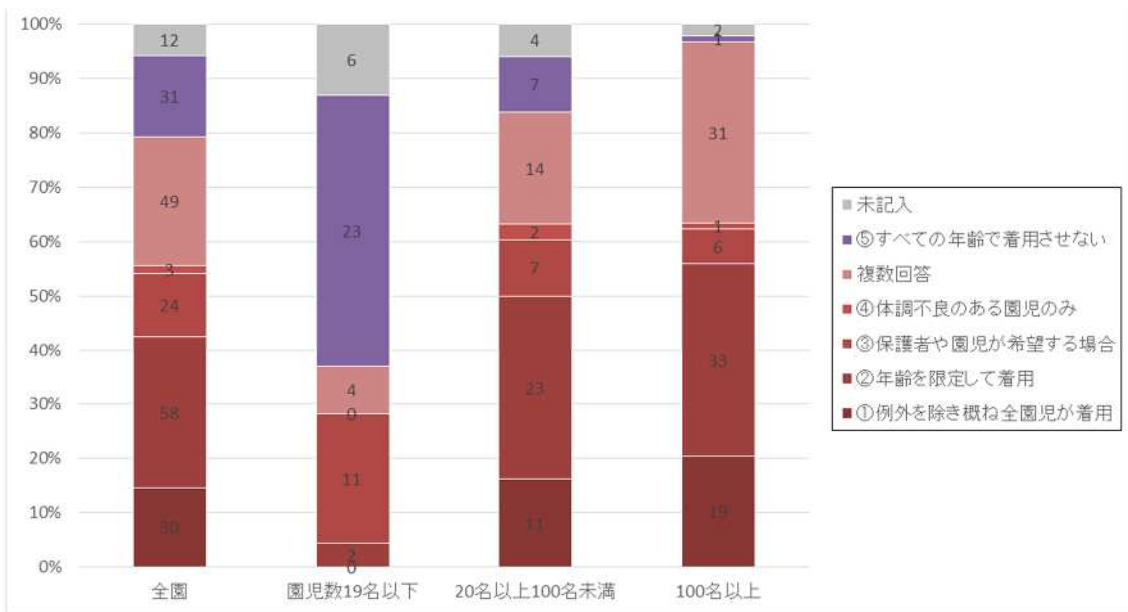


図7 園児数別コロナ禍以降の園児のマスク着用状況

園児数別のマスク着用状況では、園児数 19 名以下の施設では「すべての年齢で着用させない」とした施設が最多(46 施設中 23 施設 : 50.0%)であった。園児数 100 名以上の施設では「例外を除き全園児が着用」と答えた施設の割合が最も多く 20.4%(19/93 施設)であった。(図 7)

また、マスク着用の負担について多くの施設で職員・園児ともに負担になると答えた。(表 8)

マスク着用による園の中での「コミュニケーション変化」についての問に対しては、「ある」と答えた施設が 138 施設(66.7%)であった。特に園児数 100 名以上の施設では 71.0%(66/93 施設)は変化があると回答した。(図 9)

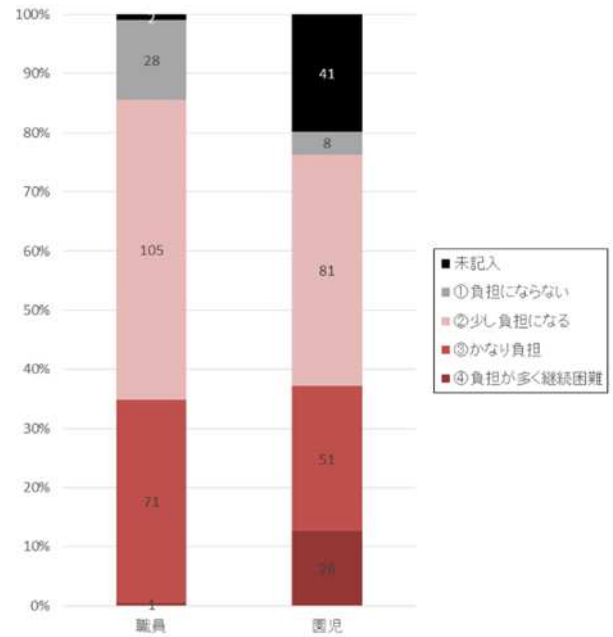
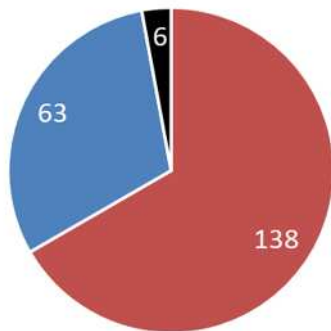


図8 職員・園児のマスク着用の負担

マスク着用による「コミュニケーションの変化」の有無



園児数別 変化の有無

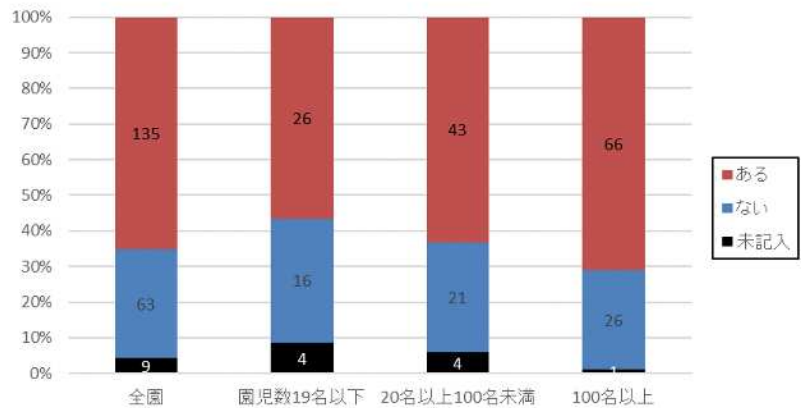


図9 マスク着用による「コミュニケーションの変化」の有無

マスク着用によるコミュニケーション変化の内容として以下のような内容が挙げられた(図 10)。表情(92件)、言葉(55件)、食事(22件)、意思疎通に関すること(19件)などが多く挙げられた。

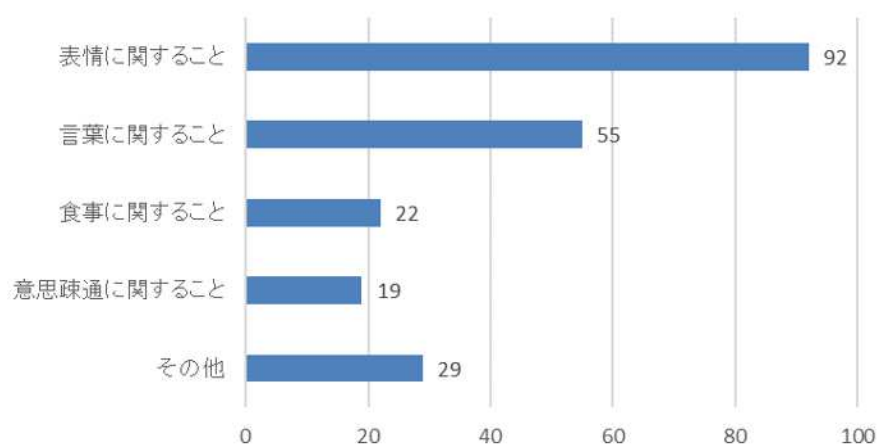


図 10 コミュニケーションの変化の内容(自由記載の内容を項目に分けて集計、複数回答)

自由記載の内容(抜粋)

- ・表情に関すること : 表情が分かりにくい(園児/保育者)、笑顔が減る、喜怒哀楽が伝わりにくい など
- ・言葉に関すること : 聞き取りにくい、聞き返しが多、園児の発語が少なくなった、口の動きを見せて言葉を教えることができない など
- ・食事に関すること : 嚥下や咀嚼を促す際に口の動き等が伝えられない、食事の介助が難しい
- ・意思疎通に関すること : 誰が話しているのかわかりにくい、意思の疎通があいまいになる、信頼関係が作りにくい、挨拶が減る など
- ・その他 : (情緒:8)園児がよく泣く、保育者がマスクを外すと泣く など
 (健康:7)顔色・体調不良が分かりにくい、苦しさがある、熱中症の心配 など
 (遊び:7)読み聞かせしにくい、表情を使った遊び・歌ができない など
 (行動:5)マスクの管理が難しい など
 (保護者:2)保護者の考え方の違いがあり対応に困る など

4. マスク以外の感染症対策について

自由記載にて、コロナ禍以後行うようになったもののうち園児にとって負担が大きい／実施が難しい感染症対策について問うた(図 12) 三密回避や行事・園外活動、食事などが多かった。

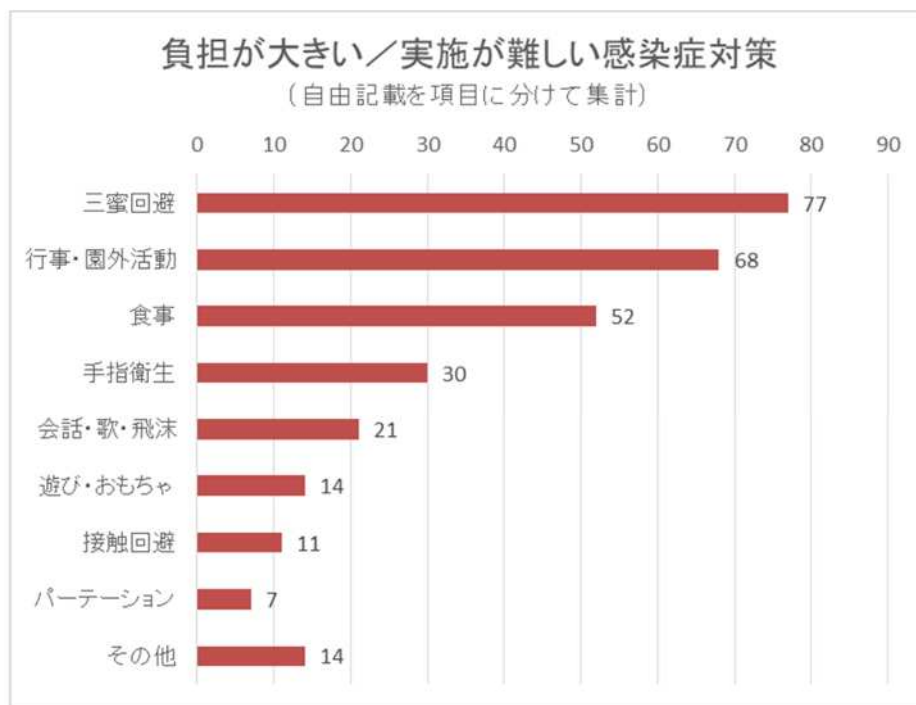


図11 マスク以外の感染症対策で子どもたちの負担が大きい/実施するのが難しいこと

5. コロナ禍以後の園児たちの様子の変化について

ストレス時の小児に起こりうる変化¹⁾として、以下のA~Jの項目について変化の有無とそれぞれの項目について1~4の選択肢のうち最も近いものをひとつ選んでもらった。

【回答の選択肢】 1. 非常にあてはまる 2. あてはまる 3. 少しあてはまる 4. あてはまらない

【園児たちの変化】

- A 体調不良を訴える園児が増えた
- B 落ち着きのない園児が増えた
- C 食欲が減った園児が増えた
- D よくしゃべる園児が増えた
- E よく泣く園児が増えた
- F 大人と離れるのを嫌がる園児が増えた
- G 言動が幼くなった園児が増えた
- H おもらしする園児が増えた
- I わがままを言う園児が増えた
- J 友達とけんかする園児が増えた

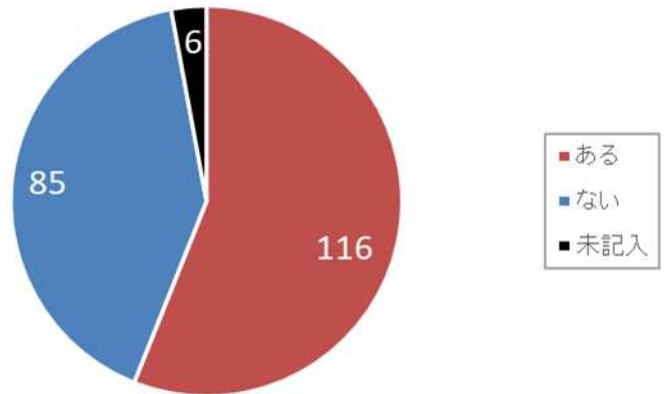


図12 園児の変化／あてはまるものの有無

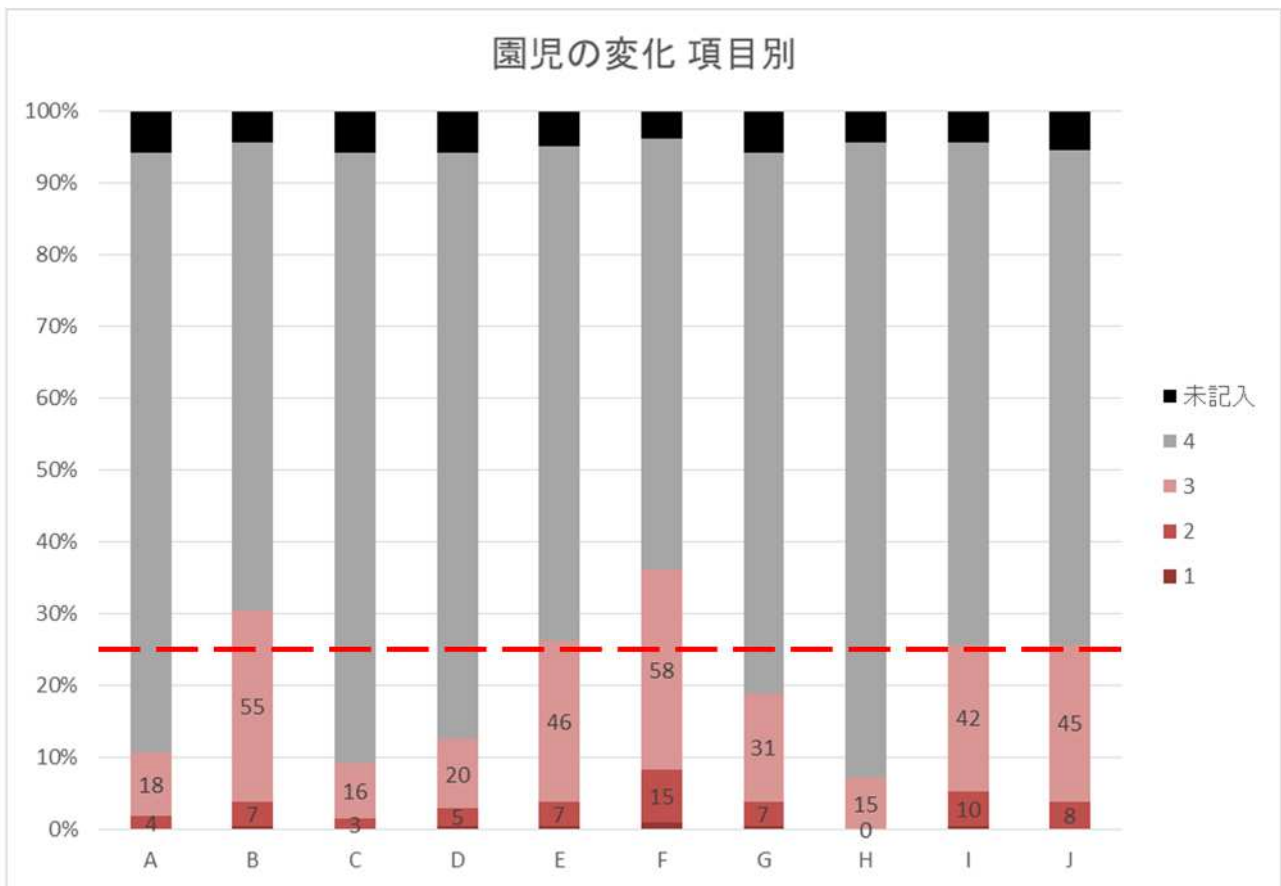
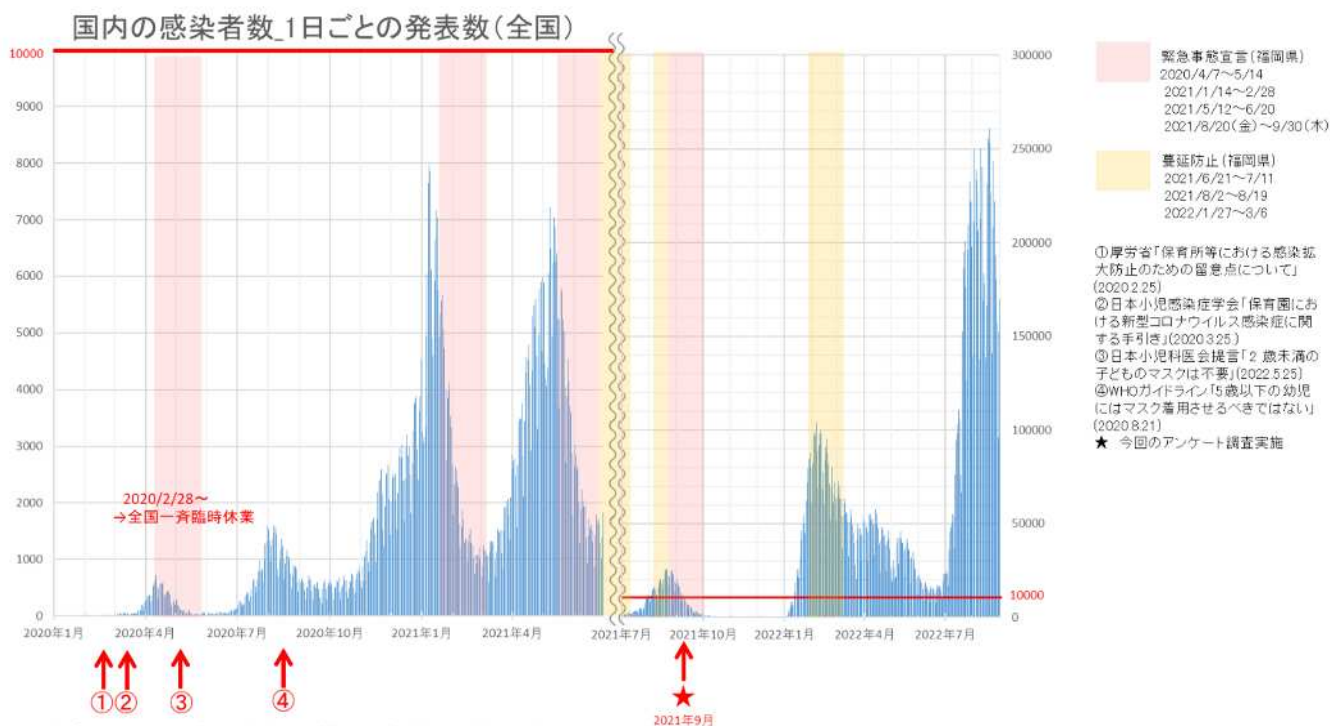


図13 コロナ禍以後の園児たちの変化

回答のうち、いずれかの項目で変化があった(1~3)とするものは全体の 56.0%(116 施設)であった。各項目については図 13 の通りで、最多のものはF 大人と離れるのを嫌がる園児が増えた(36.2%)であった。

【考察】下に国内の感染者数の経時変化と福岡県内の緊急事態宣言・蔓延防止措置の時系列を示す。2020年2月25日付厚生労働省から「保育所等における感染拡大防止のための留意点について」通達では、職員や子供の体温や体調観察について留意点が挙げられたがこの時点でマスクの着用に関するものはなかった²⁾。マスクの着用に関しては、2022年3月25日日本小児感染症学会「保育園における新型コロナウイルス感染症に関する手引き」に有症状の子どもについて、「マスクが着用できるのであれば、子どもも積極的にマスクを着用させる」と記載された³⁾。一方で2020年5月25日日本小児科医学会からは「2歳未満の子どものマスクは不要、むしろ危険」との提言がなされ⁴⁾、2020年8月21日改定のWHOガイドラインでは「通常5歳以下の幼児にはマスクを着けさせるべきではない」と記された⁵⁾。そのような変遷の中、各園で具体的にどのように対応するかを決定しなければならない状況であった。幼児がマスクすることで保育プログラムの閉鎖が少なくなるとする調査研究⁶⁾もあり、幼児のマスク着用を有用とする意見の一方で、「子どもの食における咀嚼嚥下の発達や、聴覚機能の発達、言葉の発達、そして表情による感情のコミュニケーション活動に制限を与えるものではないか」という保育者の気づきがあった。」とする報告⁷⁾もあり、悪影響を懸念する声も多い。現状においてもマスクを含めた乳幼児の感染症対策をどうすべきか定まっていないといえるだろう。



参考: 国内の感染者数の推移と各提言等の時系列関係

コロナ禍において緊急事態宣言や蔓延防止等重点措置などの宣言に応じる形で、北九州市内の保育施設でも休園や登園自粛などの対応が求められた。実際には行政からの指示に沿った要請を中心としている園が大半であったが、自粛の判断は各家庭にゆだねられていたため、頭を悩ませたとする施設の意見も見られた。感染対策の一つであるマスクの着用については大半の施設で職員・園児ともに行われていた。マスク着用によるコミュニケーションの変化を感じるとする施設は過半数あり、マスク着用により保育者・園児ともに鼻や口が覆われることによるコミュニケーションへの影響が実感されていた。特に食育に関する意見が多かったことが印象的であった。感染対策には黙食が推奨されているが、【嚥下や咀

嚙を促す際に口の動き等が伝えられない】などの現場の困りに対して、今後は感染対策もできる指導法などを感染症の専門職と一緒に考えていく必要があるのかもしれない。

また、園児たちの変化を問う質問では、ストレス反応に関連した行動変化を認めた、とする施設が半数以上あった。ただ体調不良までつながったとする園は少なく、園児たちの変化として、頻度が高かったのは、【大人との分離不安や落ち着きのなさ】などであった。不安に関連した行動と考えられ、感染症への不安、濃厚接触者や感染した保護者との隔離の経験や先が見えない現状への大人の戸惑いや不安などが子ども達の心にも影響をした可能性が考えられた。

【結論】 コロナ禍において北九州市内の集団保育の場での乳幼児のマスク着用やその他の感染症対策が多くの園で取られたが、保育者・園児ともに鼻や口が覆われることによるコミュニケーションへの影響が実感され、子どものストレス反応として行動面での変化も過半数で見られた。今回の調査結果がコロナ禍における乳幼児の感染症対策やメンタルヘルスの実態の把握となり、よりよい支援を考える一助となることを望む。

謝辞

本調査に多大なご協力いただいた北九州市内の幼稚園・保育園(所)・こども園職員のみなさまに心より御礼申し上げます。

【参考文献】

- 1) 成育医療センター. 「新型コロナウイルスと子どものストレスについて」. (<https://www.ncchd.go.jp/news/2020/20200410.html>) 閲覧日 2022.9.22.
- 2) 厚労省. 保育所等における感染拡大防止のための留意点について.2020.2.25 (<https://www.mhlw.go.jp/content/11920000/000600009.pdf>) 閲覧日 2022.9.22.
- 3)新型コロナウイルス感染症に関するワーキンググループ. 保育園における新型コロナウイルス感染症に関する手引き 第3版.2022.3.(https://www.jspid.jp/wp-content/uploads/2022/04/hoikuen_covid-19_tebiki.pdf) 閲覧日 2022.9.22.
- 4) 日本小児科医会. 2歳未満児の子どもにマスクは不要、むしろ危険. 2020.5 (https://www.jpaweb.org/dcms_media/other/2saimiman_qanda20200609.pdf) 閲覧日 2022.9.22
- 5) World Health Organization. Coronavirus disease (COVID-19) Children and masks.21 August 2020.(<https://www.who.int/news-room/q-a-detail/q-a-childrenand-masks-related-to-covid-19>) 閲覧日 2022.9.22
- 6) Thoms S. Murray et.al. Association of Child Masking With COVID-19-Related Closures in US Child care Programs. JAMA Netw Open. 2022; 5(1): e2141227
- 7) 保育者のマスク着用が保育や子どもに与える影響—COVID-19 禍による. 七木田方美. 保育と保健. 2021;27(1)13-17.